札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

明星大学
MEISEI UNIVERSITY

Japan 2017 Taiwan

第９回 国際交流ワークショップ

華梵大學
Huafan University HFU

國立臺中科技大學
NATIONAL TAICHUNG UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

國立雲林科技大學
National Yunlin University of Science & Technology

in "Summer Season" Sobetsu

概要 outline

日中５大学の学生が６チームに分かれて夏の日本(壮瞥町)にてワークショップを実施

2017年９月18日から約１週間、第９回国際交流ワークショップを実施しました。参加校は札幌市立大学（札幌）、明星大学（東京）、華梵大学（台湾）、国立台中科技大学（台湾）、国立雲林科技大学（台湾）の５校で、総勢54名（札幌18名、東京10名、台湾26名）の学生が６つのチームに分かれ、北海道有珠郡壮瞥町を中心とした１市３町（洞爺湖周辺地域）をフィールドとした国際交流デザインワークショップとなりました。

２０１７年度　ワークショップテーマ

課題 theme

観光客向け「ツーリズム」

中国に代表される海外からの観光客が、いわゆる「爆買い」をする観光から、食や文化を対象とした「体験」をもとめる観光に変化しつつあります。また、日本では地方の活性化を目的とした地域創生に注目が集まり、地域には自律して地域を創生することが求められるようになりました。

このような時代背景から、「地域が自律的に地域創生を行うことにつながるツーリズム『壮瞥町を訪れる観光客に提供する「ツーリズム」の提案』」をテーマに、ワークショップを開催しました。

具体的には、本ワークショップを主催する「『拡張キャンパス型地域連携』による過疎市町村の自律的創生デザイン研究」（略称：ACP:Augmented Campus Program）の仮説に基づき、参加した学生がグループ毎に【サイトシーイング型】【ツーリズム型】【アートプロジェクト型】を各々体験し、新たなツーリズムのあり方を提案しました。

目的 purpose

- 文化の違い、延いてはデザインの違いを実感し、常識にとらわれず、見識を広め、発想力の獲得へと昇華する。
- 同じデザインを学ぶ仲間として、互いに尊敬し、切磋琢磨して高めあい、より高いゴールに到達する。
- 国際連携ワークショップの新たな可能性を広げる。

成果 result

台風の影響を受け、実質４日間という短い期間ではありましたが、両国の学生は集中してワークショップに取り組み、非常に高レベルの成果を生み出しました。また本ワークショップは、「『拡張キャンパス型地域連携』による過疎市町村の自律的創生デザイン研究」の一環として実施され、ワークショップの前後における参加者の印象の変化を捉えることを目的としたアンケート調査や、地域創生に有用となる実験も実施されました。

過程 process

0	９月18日(月) 来日 札幌市内宿泊
1	９月19日(火) オリエンテーション 壮瞥町入（歓迎会）
2	９月20日(水) 地域体験 評価活動
3	９月21日(木) 地域体験 評価活動
4	９月22日(金) デザイン検討 発表準備
5	９月23日(土) 成果報告会 表彰式（送迎会）
6	９月24日(日) 札幌市内研修 （学生間国際交流）
7	９月25日(月) 日本出発 帰国

展望 future

従来製品デザインコースとして行われていた取り組みが札幌市立大学全体の取り組みとなり、日台の大学間交流として定着しました。また、地域の魅力提供、地域を教育の場として提供して頂いた壮瞥町商工会をはじめとした壮瞥町民の皆様と地域創生を考える機会ともなり今後も活発な活動になることが期待されます。